福岡・営直・営総発№0014-004
令和８年１１月２４日

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
（事務局：ＪＡ全農ふくれん営農総合課）

営農情報４

麦の遅播き対策について

今年は大豆の成熟期が遅れていることに加え、降雨日が多く収穫が遅れています。
そのため、大豆後に麦を作付けするほ場では、播種が 12 月以降に遅れることが心配されます。
播種が遅れると、気温が低下するため出芽までに期間を要し出芽不良や生育不足により収量、品質が低下する恐れがあります。
そこで、作業計画に基づく効率的な作業を実施し、水稲後などほ場の準備が整ったところから播種を開始するなど、適期に播種作業が完了するよう努めましょう。
播種が遅れる場合は、下記の技術対策を実施するようお願いいたします。

１　遅播きのポイント

●栽培暦を参考に、**播種量を増やして出芽本数を確保**（目標 200 本/㎡）。
●深播きにならいよう播種深度を調整し出芽までの期間を短くする。
●シロトビムシ類の被害が心配されるほ場では、薬剤防除による対策を実施。

２　土壌水分に応じて播種の深さを調整

●土壌水分が適度にある場合は、播種深度は２～３㎝（種子が隠れる程度）。
●土壌が乾燥（しばらく降雨がない天気予報）している場合は、播種深度は４～５㎝。

３　播種後の技術対策

（１）踏圧

麦の分げつ促進や倒伏防止のため、葉齢が３葉期以上になったら踏圧を行い、茎立ち期までに数回、土壌水分が少ない時に実施する。

（２）土入れ

追肥後は必ず土入れを行い、肥料の流亡を防ぐ。

以上